

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	四国医療専門学校
設置者名	学校法人大麻学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	鍼灸マッサージ学科	夜・通信	840 時間	240 時間	
	鍼灸学科 1 部	夜・通信	690 時間	240 時間	
	鍼灸学科 2 部	夜・通信	690 時間	135 時間	
	柔道整復学科 1 部	夜・通信	1,530 時間	240 時間	
	柔道整復学科 2 部	夜・通信	1,530 時間	135 時間	
	理学療法学科	夜・通信	1,080 時間	320 時間	
	作業療法学科	夜・通信	1,170 時間	320 時間	
	看護学科	夜・通信	2,535 時間	320 時間	
	スポーツ医療学科	夜・通信	400 時間	90 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HP による公表 http://www.459.ac.jp/public/
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	四国医療専門学校
設置者名	学校法人大麻学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HPによる公表 http://www.459.ac.jp/public/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元県議会議員	2019.5.28 ） 2021.5.27	職業教育の社会的 ニーズ動向把握、及 び、学校運営への反 映
非常勤	元地方新聞役員	2019.5.28 ） 2021.5.27	職業教育の社会的 ニーズ把握・反映、 並びに、的確な広報 活動
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	四国医療専門学校
設置者名	学校法人大麻学園

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目について、授業科目名、科目の区分(基礎科目、専門基礎科目、専門科目、専門関連科目)、履修学年、履修時期(前期、後期、通年)、時間、必選別、担当教員、授業の概要(この科目で何を学習するか、また実務経験のある教員などについてはその旨)及び到達目標、授業計画(授業回数やスケジュール)、学習方法(講義、演習、実技、実習)、評価方法、教科書及び参考書、学生への要望等の項目別に説明文を入れた授業概要を担当教員が作成し、学科会議、教務委員会及び教員会議を経て、年度末の3月に学校長が決定する。年度当初に、学生及び保護者へ配付している。</p>	
授業計画書の公表方法	年度当初に HP にて公表 http://www.459.ac.jp/public/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>(1) 講義、実習等に必要な時間を取得しており、かつ、当該科目の成績において60点以上の成績を得た者には、所定の単位を与えている。</p> <p>(2) 講義・演習・実習・臨床実習の成績は以下のとおりである。</p> <p>秀・・・90点以上</p> <p>優・・・80点以上90点未満</p> <p>良・・・70点以上80点未満</p> <p>可・・・60点以上70点未満</p> <p>不可・・・60点未満</p> <p>(3) 臨床実習の成績評価</p> <p>実習指導者の評価にもとづいて、学科内で総合的に判断し、上記(2)のとおり最終評価する。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学業成績を総合的に評価するための基準として GPA (Grade Point Average) を用いている。GPA は学期毎に算定する。</p> <p>GPA の算定に当たっては、履修した各科目の評価に GP (Grade Point) (以下「GP」という。) を割り当て、その平均を取ることとし、以下の数式により算定する。</p> <p><u>(履修登録した GPA 対象科目の GP×その科目の単位数) の合計</u> 履修登録した GPA 対象科目の単位数の合計</p>	

GPA の対象科目は授業科目のうち、成績評価で示すことのできる授業科目とする。

GP の割り当てについては、学則第 31 条第 3 項に定める成績の評価に応じて、次に定める GP を割り当てる。

成績評価	GP
秀 (90~100 点)	4
優 (80~89 点)	3
良 (70~79 点)	2
可 (60~69 点)	1
不可 (59 点以下)	0

客観的な指標の
算出方法の公表方法

授業概要に掲載し HP にて公表
<http://www.459.ac.jp/public/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校の建学の精神および教育理念に基づき、社会におけるニーズを踏まえ、各学科の教育課程編成方針、卒業認定に関する基本的な方針（ディプロマポリシー）を定め、授業概要に掲載し学生へ公表している。

卒業の認定は、履修しなければならないすべての単位を取得している者に対し、授業の出席状況、授業の態度、単位取得状況などを総合的に判断し、学科会議及び教員会議の議を経て学校長が決定する。

なお、学科毎のディプロマ・ポリシーと卒業認定は、以下を参照のこと。

<鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科 1 部・2 部>

1. ディプロマ・ポリシー

鍼灸マッサージ学科及び鍼灸学科では、所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた者に対して専門士の称号を付与する。

- 1) 将来、医療施設、施術所等において臨床にあたる上で必要な、現代医学及び東洋医学の基礎的知識と基本的技能を修得している。
- 2) 医療人として必要な基本的態度・習慣を身につけている。
- 3) 医学的問題を正しく捉え、自然科学のみならず、社会的、心理的、倫理的方法を統合して解決する為の能力を身につけている。
- 4) 生涯にわたり自主的に課題に取り組み、問題点を把握しつつ追求し、解決できる能力及び自己学習する態度・習慣を身につけている。

2. 卒業の認定

卒業の認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を取得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。

<柔道整復学科 1 部・2 部>

1. ディプロマ・ポリシー

柔道整復学科では、学則に定めた単位を修得し、柔道整復師に求められる基礎的な知識と技能・態度習慣を身に付け、以下の素養を身につけた者に対して専門士の称号を付与する。

- 1) 専門性（自律）：柔道整復師としての資質の向上に努めることができる。
- 2) 道徳性（信頼）：柔道整復師としての美徳の陶冶に努めることができる。
- 3) 公益性（貢献）：柔道整復師としての知識と技術をもって社会に貢献できる。

2. 卒業の認定

卒業の認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を取得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。

<理学療法学科>

1. デイプロマ・ポリシー

理学療法学科では以下のような能力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生は、卒業が認定される。

- 1) 人を広く深く理解し、人と関わりあえる態度を身につけている。
- 2) リハビリテーションの基本的な知識・技術を修得している。
- 3) 保健医療福祉チームの一員としての役割と責任を果たす能力を身につけている。
- 4) 専門職としての認識を深め、生涯学習を継続する姿勢を身につけている。
- 5) 高い問題処理能力を培い、将来において学術的に活動できる態度を身につけている。

2. 卒業の認定

卒業認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を取得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。

<作業療法学科>

1. デイプロマ・ポリシー

作業療法学科では、以下のような能力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生は、卒業が認定される。

- 1) ひとが作業を通じて健康で幸福な生活を行うために、人を広く深く理解するための探求する能力が身につけることができる。
- 2) 作業療法の実践に必要な基本的知識と技能を修得することに加え、その人の課題を的確に捉え、解決するために必要な知識を統合できる能力を身につけることができる。
- 3) 対象者や様々な医療・介護職種と良好な人間関係を構築することができる人間性豊かなコミュニケーション能力を有し、職業人として責任のある行動ができる。
- 4) 作業療法の社会的役割を認識し、生涯探求していく姿勢を身につけることができる。
- 5) 卒業後、時代のニーズを理解し、地域社会に貢献できる人材として活動ができる。

2. 卒業の認定

卒業認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を取得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。

<看護学科>

1. デイプロマ・ポリシー

看護学科では、所定の単位を修得し、以下の力を身につけた者に対して、高度専門士の称号を付与する。

- 1) 生命・人権を学び、倫理観に基づいて判断・行動できる心豊かな人間性を身につけている。

<p>2) 看護の対象を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた知識・技術・態度と、信頼される看護が実践できる基礎的能力を修得している。</p> <p>3) 東洋医学の理論・心・技を理解し、看護の対象を深く癒せる実践能力を修得している。</p> <p>4) 保健・医療・福祉に関する理論及び社会の問題を「福祉学」と「心理学」の面から教育研究するとともに、福祉行政のあり方を考える能力を修得している。</p> <p>5) 看護の社会的役割を認識し、保健医療福祉チームの一員として行動できる能力を身につけている。</p> <p>6) 専門職業人として成長・発達できるよう自己研鑽に努め、変動する社会のニーズに対応できる能力を身につけている。</p> <p>7) 国際社会の中で活躍する専門職業人である自覚をもち、広い視野で 21 世紀の看護を創造する能力を身につけている。</p> <p>2. 卒業の認定</p> <p>卒業の認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を取得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。</p> <p><スポーツ医療学科></p> <p>1. ダイプロマ・ポリシー</p> <p>スポーツ医療学科では、所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた者に対して、卒業を認定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人体の構造と機能に対する基礎的な理解 2) リハビリテーションに対する基礎的な知識と技能 3) トレーニングに対する基礎的な知識と技能 4) 競技者の評価方法に対する基礎的な知識と技能 5) コンディショニングに対する基礎的な知識と技能 6) 救急処置の知識と技能 7) 競技者に対する栄養学の知識 8) ドーピングに関する知識 9) チームマネジメント <p>2. 卒業の認定</p> <p>卒業の認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を取得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="268 1496 587 1579">卒業の認定に関する方針の公表方法</td> <td data-bbox="587 1496 1353 1579">授業概要に掲載し HP にて公表 http://www.459.ac.jp/public/</td> </tr> </table>	卒業の認定に関する方針の公表方法	授業概要に掲載し HP にて公表 http://www.459.ac.jp/public/
卒業の認定に関する方針の公表方法	授業概要に掲載し HP にて公表 http://www.459.ac.jp/public/		

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	四国医療専門学校
設置者名	学校法人大麻学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	HPにて公表 http://www.459.ac.jp/public/
収支計算書又は損益計算書	HPにて公表 http://www.459.ac.jp/public/
財産目録	HPにて公表 http://www.459.ac.jp/public/
事業報告書	HPにて公表 http://www.459.ac.jp/public/
監事による監査報告書	HPにて公表 http://www.459.ac.jp/public/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	鍼灸マッサージ学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,835時間/100単位 単位時間/単位	1,725 単位時間 /単位	210 単位時間 /単位	180 単位時間 /単位	720 単位時間 /単位	
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90人		88人	0人	12人	19人	31人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各授業科目について、授業科目名、科目の区分（基礎科目、専門基礎科目、専門科目、専門関連科目）、履修学年、履修時期（前期、後期、通年）、時間、必選別、担当教員、授業の概要（この科目で何を学習するか、また実務経験のある教員などについてはその旨）及び到達目標、授業計画（授業回数やスケジュール）、学習方法（講義、演習、実技、実習）、評価方法、教科書及び参考書、学生への要望等の項目別に説明文を入れた授業概要を作成し、年度当初に学生及び保護者へ配付している。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>成績認定（単位認定）と単位取得</p> <p>定期試験において、60点以上（実技定期試験は以上）の成績を得、次学年への進級や卒業が認定された者には所定の単位が与えられる。これを学校側からは単位認定、学生側からは単位取得という。ただし、進級や卒業が認定されなかった場合も当該学年で取得した基礎分野の単位は認定することがある。</p> <p>(1) 講義・演習の成績評価</p> <p>秀・・・90点以上</p> <p>優・・・80点以上90点未満</p>

<p>良・・・70点以上80点未満 可・・・60点以上70点未満 不可・・・60点未満 (2) 実技・実習の成績評価 秀、優、良、可、不可の5段階とし、可以上を合格とする。</p>
<p>卒業・進級の認定基準 (概要) 1. 進級認定 進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を取得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が認定する。また、進級の条件に、補習授業の受講や課題の提出等が附帯する場合がある。 2. 卒業認定 卒業の認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を取得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。</p>
<p>学修支援等 (概要) 毎月1回行われる授業内容の確認試験（1、2年次）、国家試験模擬試験（3年次）及び同試験において学習到達度の低い学生に対して補習授業と課題提出を実施。放課後等の空き時間を利用し、実技系科目を含めた補習授業を実施。昼夜間部開講の特徴を活かし、当該学年で開講される授業等の希望者に対する聴講制度の実施。担任による定期的な学生面談及び緊急性や必要に応じての四者面談（保証人、学科長を含む）の実施。学生が自由に利用できるWebを用いた学習支援サイト（e-459）の開設。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
26人 (100%)	3人 (11.5%)	21人 (80.8%)	2人 (7.7%)
(主な就職、業界等) 施術所、病院			
(就職指導内容) 職場説明会、担任等による就職面談			
(主な学修成果（資格・検定等）) あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
86 人	2 人	2.3%
(中途退学の主な理由) 学業不振、クラス内での人間関係		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任等による学生面談		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	鍼灸学科 1 部	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2,655 時間/94 単位 単位時間/単位	1,665 単位時間 /単位	210 単位時間 /単位	180 単位時間 /単位	600 単位時間 /単位	
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		34 人	0 人	12 人	18 人	30 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 各授業科目について、授業科目名、科目の区分 (基礎科目、専門基礎科目、専門科目、専門関連科目)、履修学年、履修時期 (前期、後期、通年)、時間、必選別、担当教員、授業の概要 (この科目で何を学習するか、また実務経験のある教員などについてはその旨) 及び到達目標、授業計画 (授業回数やスケジュール)、学習方法 (講義、演習、実技、実習)、評価方法、教科書及び参考書、学生への要望等の項目別に説明文を入れた授業概要を作成し、年度当初に学生及び保護者へ配付している。
成績評価の基準・方法
(概要) 成績認定 (単位認定) と単位取得 定期試験において、60 点以上 (実技定期試験は可以上) の成績を得、次学年への進級や卒業が認定された者には所定の単位が与えられる。これを学校側からは単位認定、学生側からは単位取得という。 ただし、進級や卒業が認定されなかった場合でも、当該学年で取得した基礎分野の単位は認定することがある。 (1) 講義・演習の成績評価 秀・・・90 点以上 優・・・80 点以上 90 点未満 良・・・70 点以上 80 点未満 可・・・60 点以上 70 点未満 不可・・・60 点未満 (2) 実技・実習の成績評価 秀、優、良、可、不可の 5 段階とし、可以上を合格とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 1. 進級認定 進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を取得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が認定する。また、進級の条件に、補習授業の受講や課題の提出等が附帯する場合がある。 2. 卒業認定 卒業の認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を取得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。
学修支援等

(概要)

毎月1回行われる授業内容の確認試験(1、2年次)、国家試験模擬試験(3年次)及び同試験において学習到達度の低い学生に対して補習授業と課題提出を実施。放課後等の空き時間を利用し、実技系科目を含めた補習授業を実施。昼夜間部開講の特徴を活かし、当該学年で開講される授業等の希望者に対する聴講制度の実施。担任による定期的な学生面談及び緊急性や必要に応じての四者面談(保証人、学科長を含む)の実施。学生が自由に利用できるWebを用いた学習支援サイト(e-459)の開設。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100%)	0人 (0%)	7人 (43.8%)	9人 (56.2%)
(主な就職、業界等) 施術所、医療機関			
(就職指導内容) 職場説明会、担任等による就職面談			
(主な学修成果(資格・検定等)) はり師、きゅう師			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
45人	3人	6.7%
(中途退学の主な理由) 就学環境(家庭・職場)、成績不振、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任等による学生面談		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	鍼灸学科 2 部	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	夜	2, 655 時間／94 単位 単位時間／単位	1, 665 単位時間 /単位	210 単位時間 /単位	180 単位時間 /単位	600 単位時間 /単位	
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		34 人	0 人	12 人	13 人	25 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 各授業科目について、授業科目名、科目の区分 (基礎科目、専門基礎科目、専門科目、専門関連科目)、履修学年、履修時期 (前期、後期、通年)、時間、必選別、担当教員、授業の概要 (この科目で何を学習するか、また実務経験のある教員などについてはその旨) 及び到達目標、授業計画 (授業回数やスケジュール)、学習方法 (講義、演習、実技、実習)、評価方法、教科書及び参考書、学生への要望等の項目別に説明文を入れた授業概要を作成し、年度当初に学生及び保護者へ配付している。
成績評価の基準・方法
(概要) 成績認定 (単位認定) と単位取得 定期試験において、60 点以上 (実技定期試験は可以上) の成績を得、次学年への進級や卒業が認定された者には所定の単位が与えられる。これを学校側からは単位認定、学生側からは単位取得という。ただし、進級や卒業が認定されなかった場合も当該学年で取得した基礎分野の単位は認定することがある。 (1) 講義・演習の成績評価 秀・・・90 点以上 優・・・80 点以上 90 点未満 良・・・70 点以上 80 点未満 可・・・60 点以上 70 点未満 不可・・・60 点未満 (2) 実技・実習の成績評価 秀、優、良、可、不可の 5 段階とし、可以上を合格とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 1. 進級認定 進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を取得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が認定する。また、進級の条件に、補習授業の受講や課題の提出等が附帯する場合がある。 2. 卒業認定 卒業の認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を取得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。
学修支援等

(概要)

毎月1回行われる授業内容の確認試験（1、2年次）、国家試験模擬試験（3年次）及び同試験において学習到達度の低い学生に対して補習授業と課題提出を実施。放課後等の空き時間を利用し、実技系科目を含めた補習授業を実施。昼夜間部開講の特徴を活かし、当該学年で開講される授業等の希望者に対する聴講制度の実施。担任による定期的な学生面談及び緊急性や必要に応じての四者面談（保証人、学科長を含む）の実施。学生が自由に利用できるWebを用いた学習支援サイト（e-459）の開設。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11人 (100%)	0人 (0%)	8人 (72.7%)	3人 (27.3%)
(主な就職、業界等) 施術所、医療機関			
(就職指導内容) 職場説明会、担任等による就職面談			
(主な学修成果（資格・検定等）) はり師、きゅう師			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31人	3人	9.7%
(中途退学の主な理由) 就学環境（家庭・職場）、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任等による学生面談		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	柔道整復学科 1 部	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2,760 時間／113 単位 単位時間／単位	1,530 単位時間 /単位	330 単位時間 /単位	180 単位時間 /単位	720 単位時間 /単位	
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		64 人	0 人	9 人	13 人	21 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 各授業科目について、授業科目名、科目の区分 (基礎科目、専門基礎科目、専門科目、)、履修学年、履修時期 (前期、後期、通年)、時間、必選別、担当教員、授業の概要 (この科目で何を学習するか、また実務経験のある教員などについてはその旨) 及び到達目標、授業計画 (授業回数やスケジュール)、学習方法 (講義、演習、実技、実習)、評価方法、教科書及び参考書、学生への要望等の項目別に説明文を入れた授業概要を作成し、年度当初に学生及び保護者へ配付している。
成績評価の基準・方法
(概要) 講義、実習等に必要の時間を取得しており、かつ、当該科目の成績において 60 点以上の成績を得た者には、所定の単位が与えられる。 (1) 講義・演習・実習・実技の成績は以下のとおりである。 秀・・・90 点以上 優・・・80 点以上 90 点未満 良・・・70 点以上 80 点未満 可・・・60 点以上 70 点未満 不可・・・60 点未満 (2) 臨床実習の成績評価 実習指導者の評価にもとづいて、学科内で総合的に判断し、上記のとおり最終評価する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 1. 進級認定 進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を取得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。 2. 卒業認定 卒業の認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての単位を取得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。

学修支援等			
(概要) 模擬試験を頻回に実施し、学生の苦手なところを顕在化し、レポート作成や指導で学力の底上げを図っている。また、必要に応じて補習なども実施している。			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
30人 (100%)	1人 (3.3%)	29人 (96.7%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 接骨院、デイサービス等の介護施設、病院			
(就職指導内容) 就職希望調査やアンケートをもとに、担任や就職支援担当教員による個別指導を実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 柔道整復師国家試験受験資格 日本トレーニング指導者協会認定トレーニング指導者 初級障がい者スポーツ指導員 赤十字ベーシックライフサポーター			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
69人	2人	2.9%
(中途退学の主な理由) 就職や他業種への進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任教員による個別面談を数回実施して学生状況を把握し、状況に応じ学科長及び担任教員による保護者面談を実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	柔道整復学科 2 部	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	夜	2,760 時間／113 単位 単位時間／単位	1,530 単位時間 /単位	330 単位時間 /単位	180 単位時間 /単位	720 単位時間 /単位	
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		17 人	0 人	9 人	13 人	22 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 各授業科目について、授業科目名、科目の区分 (基礎科目、専門基礎科目、専門科目、専門関連科目)、履修学年、履修時期 (前期、後期、通年)、時間、必選別、担当教員、授業の概要 (この科目で何を学習するか、また実務経験のある教員などについてはその旨) 及び到達目標、授業計画 (授業回数やスケジュール)、学習方法 (講義、演習、実技、実習)、評価方法、教科書及び参考書、学生への要望等の項目別に説明文を入れた授業概要を作成し、年度当初に学生及び保護者へ配付している。
成績評価の基準・方法
(概要) 講義、実習等に必要の時間を取得しており、かつ、当該科目の成績において 60 点以上の成績を得た者には、所定の単位が与えられる。 (1) 講義・演習・実習・実技の成績は以下のとおりである。 秀・・・90 点以上 優・・・80 点以上 90 点未満 良・・・70 点以上 80 点未満 可・・・60 点以上 70 点未満 不可・・・60 点未満 (2) 臨床実習の成績評価 実習指導者の評価にもとづいて、学科内で総合的に判断し、上記のとおり最終評価する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 1. 進級認定 進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を取得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。 2. 卒業認定 卒業の認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての単位を取得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。
学修支援等
(概要) 模擬試験を頻回に実施し、学生の苦手なところを顕在化し、レポート作成や指導で学力の底上げを図っている。また、必要に応じて補習なども実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
4人 (100%)	0人 (0%)	4人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 接骨院			
(就職指導内容) 就職希望調査やアンケートをもとに、担任や就職支援担当教員による個別指導を実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 柔道整復師国家試験受験資格 日本トレーニング指導者協会認定 トレーニング指導者 日本障がい者スポーツ協会公認 初級障がい者スポーツ指導員 赤十字ベーシックライフサポーター			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
14人	0人	0%
(中途退学の主な理由) なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任教員による個別面談を数回実施して学生状況を把握している。状況に応じ学科長及び担任教員による保護者面談を実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	理学療法学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,705時間／130単位 単位時間／単位	1,710 単位時間 ／単位	510 単位時間 ／単位	1,215 単位時間 ／単位	270 単位時間 ／単位	
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
144人		115人	0人	7人	33人	40人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各授業科目について、授業科目名、科目の区分（基礎科目、専門基礎科目、専門科目、専門関連科目）、履修学年、履修時期（前期、後期、通年）、時間、必選別、担当教員、授業の概要（この科目で何を学習するか、また実務経験のある教員などについてはその旨）及び到達目標、授業計画（授業回数やスケジュール）、学習方法（講義、演習、実技、実習）、評価方法、教科書及び参考書、学生への要望等の項目別に説明文を入れた授業概要を作成し、年度当初に学生及び保護者へ配付している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>講義、実習等に必要の時間を取得しており、かつ、当該科目の成績において60点以上の成績を得た者には、所定の単位が与えられる。</p> <p>(1) 講義・演習・実習・臨床実習の成績は以下のとおりである。</p> <p>秀・・・90点以上 優・・・80点以上90点未満 良・・・70点以上80点未満 可・・・60点以上70点未満 不可・・・60点未満</p> <p>(2) 臨床実習の成績評価</p> <p>実習指導者の評価にもとづいて、学科内で総合的に判断し、上記のとおり最終評価する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>1. 進級認定</p> <p>進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を取得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。</p> <p>2. 卒業認定</p> <p>卒業認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を取得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。</p>
学修支援等

<p>(概要)</p> <p>1年次から3年次までは、ゼミナールの時間を利用し、基礎科目の内容の強化や通常カリキュラム内容の復習を行い、学習を支援する。</p> <p>また、校内作成や業者作成の模擬試験などを実施し、学力の把握や苦手科目の対策を実施する。</p>				
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）				
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他	
35人 (100%)	0人 (0%)	32人 (91.4%)	3人 (8.6%)	
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>病院、診療所等の医療業界、介護老人保健施設、デイサービス等</p>				
<p>(就職指導内容)</p> <p>就職希望アンケートにて学生個々のニーズを把握し、求人施設への就職適性の検討、就職説明会の開催などの支援を通じ、学生本人にとって最適、かつ、納得できる就職先の選択へと導いていく。面談、施設見学、面接指導、履歴書指導も必要に応じて行う。</p>				
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>理学療法士、福祉住環境コーディネーター2級、社会人基礎力検定</p>				
<p>(備考)（任意記載事項）</p> <p>1年は新課程、2～4年は旧課程</p> <p>上記表中は新課程の各時間数、下記は旧課程の内容</p> <p>全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 3,810時間／159単位</p>				
	講義	演習	実習	実験
	1,680 単位時間 /単位	690 単位時間 /単位	1,170 単位時間 /単位	300 単位時間 /単位
実技				
300 単位時間 /単位				
<p>中途退学の現状</p>				
年度当初在学者数		年度の途中における退学者の数		中退率
121人		7人		5.8%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>経済的事由、学業不振、進路変更、個人的事情</p>				
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>初年度教育の充実、担任制によるサポート、実習前教育の充実</p>				

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	作業療法学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,765時間／131単位 単位時間／単位	1,770 単位時間 ／単位	510 単位時間 ／単位	1,215 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	270 単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		86人	0人	7人	28人	35人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各授業科目について、授業科目名、科目の区分（基礎科目、専門基礎科目、専門科目、専門関連科目）、履修学年、履修時期（前期、後期、通年）、時間、必選別、担当教員、授業の概要（この科目で何を学習するか、また実務経験のある教員などについてはその旨）及び到達目標、授業計画（授業回数やスケジュール）、学習方法（講義、演習、実技、実習）、評価方法、教科書及び参考書、学生への要望等の項目別に説明文を入れた授業概要を作成し、年度当初に学生及び保護者へ配付している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>講義、実習等に必要時間を取得しており、かつ、当該科目の成績において60点以上の成績を得た者には、所定の単位が与えられる。</p> <p>(1) 講義・演習・実習・臨床実習の成績は以下のとおりである。</p> <p>秀・・・90点以上 優・・・80点以上90点未満 良・・・70点以上80点未満 可・・・60点以上70点未満 不可・・・60点未満</p> <p>(2) 臨床実習の成績評価</p> <p>実習指導者の評価にもとづいて、学科内で総合的に判断し、上記のとおり最終評価する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>1. 進級認定</p> <p>進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を取得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。</p> <p>また、進級の条件に、補習授業の受講や課題の提出等が附帯する場合がある。</p> <p>2. 卒業認定</p> <p>卒業認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を取得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。</p>

学修支援等				
(概要)				
1年次から3年次までは、ゼミナールの時間を利用し、基礎科目の内容の強化や通常カリキュラム内容の復習を行い、学習を支援する。また、校内作成や業者作成の模擬試験などを実施し、学力の把握や苦手科目の対策を実施する。				
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）				
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他	
12人 (100%)	0人 (0%)	11人 (91.6%)	1人 (8.4%)	
(主な就職、業界等)				
病院、介護老人保健施設、介護系企業				
(就職指導内容)				
担任を中心に面接等を通して進路を把握し、学生本人にとって最適かつ納得できる就職先の選択へと導いていく。面談、施設見学、面接指導、履歴書指導も必要に応じて行う。				
(主な学修成果（資格・検定等）)				
作業療法士、福祉住環境コーディネーター2級、ビジネス検定3級、メンタルヘルスマネジメントⅢ種				
(備考)（任意記載事項）				
1年は新課程、2～4年は旧課程。上記記載は新課程にて全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数及び開設している授業の種類を記載。 下記に旧課程を記載。 3,840時間／159単位 単位時間／単位				
講義	演習	実習	実験	実技
1,980 単位時間 /単位	120 単位時間 /単位	1,170 単位時間 /単位	180 単位時間 /単位	390 単位時間 /単位
中途退学の現状				
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率		
88人	8人	9.1%		
(中途退学の主な理由)				
進路変更、成績不良、婚姻、個人的事情				
(中退防止・中退者支援のための取組)				
担任教員を中心とした頻回な相談・面談（保護者との3者面談含む）				

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	看護学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,660時間/134単位 単位時間/単位	1,455 単位時間 /単位	475 単位時間 /単位	1,170 単位時間 /単位	単位時間 /単位	570 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
300人		189人	0人	14人	59人	73人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）						
（概要） 各授業科目について、授業科目名、科目の区分（共通科目、専門科目、現場実習）、履修学年、履修時期（前期、後期、通年）、時間、必選別、担当教員、授業の概要（この科目で何を学習するか、また実務経験のある教員などについてはその旨）及び到達目標、授業計画（授業回数やスケジュール）、学習方法（講義、演習、実技、実習）、評価方法、教科書及び参考書、学生への要望等の項目別に説明文を入れた授業概要を作成し、年度当初に学生及び保護者へ配付している。						
成績評価の基準・方法						
（概要） 講義、実習等に必要な時間を取得しており、かつ、当該科目の成績において60点以上の成績を得た者には、所定の単位が与えられる。 (1) 講義・演習・実習・臨床実習の成績は以下のとおりである。 秀・・・90点以上 優・・・80点以上90点未満 良・・・70点以上80点未満 可・・・60点以上70点未満 不可・・・60点未満 (2) 臨床実習の成績評価 実習指導者の評価にもとづいて、学科内で総合的に判断し、上記のとおり最終評価する。						
卒業・進級の認定基準						
（概要） 1. 進級認定 進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を取得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。 2. 卒業認定 卒業の認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての単位を取得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。						

学修支援等 (概要) 基礎科目のワークを利用した全体への補習、個別指導、学生をピアサポートグループに分けてグループ指導を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
45人 (100%)	3人 (6.7%)	42人 (93.3%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 医療機関（病院、地域医療支援病院、特定機能病院等）			
(就職指導内容) 担任を中心に面接等を通して進路希望を把握し、履歴書の書き方、添削指導を行う。 各病院の募集ガイドの紹介、就職説明会の紹介、インターンシップの紹介を行う。 また、就職試験前には模擬就職面接を実施する。指導も必要に応じて行う。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 看護師、高度専門士、社会福祉主事、BLSヘルスケアプロバイダー			
(備考)（任意記載事項） 卒業生全員が上記の資格を取得している。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
186人	8人	4.3%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、人間関係等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個別面談を実施し、学習状況と悩みや不安の確認。また、学習困難者、成績不良者、出席率不良者出席率の悪い学生は家族への連絡・相談、適宜カウンセラーへの紹介		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	スポーツ医療学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	夜	1,034時間/59単位 単位時間/単位	624 単位時間 /単位	230 単位時間 /単位	180 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		25人	0人	3人	26人	29人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各授業科目について、授業科目名、科目の区分（共通科目、専門科目、現場実習）、履修学年、履修時期（前期、後期、通年）、時間、必選別、担当教員、授業の概要（この科目で何を学習するか、また実務経験のある教員などについてはその旨）及び到達目標、授業計画（授業回数やスケジュール）、学習方法（講義、演習、実技、実習）、評価方法、教科書及び参考書、学生への要望等の項目別に説明文を入れた授業概要を作成し、年度当初に学生及び保護者へ配付している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>単位認定（成績認定）と単位取得</p> <p>（1）講義、実習等に必要の時間を取得しており、かつ、当該科目の成績において60点以上の成績を得た者には、所定の単位が与えられる。これを学校側からは「単位認定」、学生側からは「単位取得」という。</p> <p>（2）講義・演習の成績評価</p> <p>試験の評価は、各科目100点をもって満点とし、秀（90点以上）、優（80点以上90点未満）、良（70点以上80点未満）、可（60点以上70点未満）、及び不可（60点未満）とし、可以上を合格とする。</p> <p>（3）実習の成績評価</p> <p>実習指導者の評価に基づいて、学科内で総合的に判断し、上記（2）のとおり最終評価する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>1. 進級認定</p> <p>進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を取得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。</p> <p>2. 卒業認定</p> <p>卒業の認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての単位を取得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>補習授業や資格試験対策（講義や実技）を実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
7人 (100%)	5人 (71.4%)	2人 (28.6%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) デイサービスセンター、スポーツクラブ、診療所等			
(就職指導内容) 求人票を開示し、学生からの申し出により企業とのマッチングを図る。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、日本トレーニング指導者協会認定トレーニング指導者、赤十字救急法救急員			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	2人	9.1%
(中途退学の主な理由) 家庭の事情		
(中退防止・中退者支援のための取組) 成績不良による脱落防止を目的に、補習授業を4回/週実施		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
鍼灸マッサージ学科	750,000 円	1,330,000 円	50,000 円	実習費/年間
鍼灸学科 1 部	300,000 円	970,000 円	50,000 円	実習費/年間
鍼灸学科 2 部	300,000 円	850,000 円	50,000 円	実習費/年間
柔道整復学科 1 部	300,000 円	970,000 円	50,000 円	実習費/年間
柔道整復学科 2 部	300,000 円	850,000 円	50,000 円	実習費/年間
理学療法学科	300,000 円	1,040,000 円	150,000 円	実習費/年間
作業療法学科	300,000 円	1,040,000 円	150,000 円	実習費/年間
看護学科	150,000 円	700,000 円	150,000 円	実習費/年間
スポーツ医療学科	150,000 円	650,000 円	150,000 円	実習費/年間
修学支援 (任意記載事項)				
AO 入試特待生制度、夜間部併修者優遇制度、修学支援給付金支給制度、同時入学優遇制度、在校生・卒業生優遇制度、ご家族優遇制度 専門実践教育訓練給付金制度、日本学生支援機構奨学金、交通遺児育英会、あしなが育英資金ほか、日本政策金融公庫、百十四銀行、オリエントコーポレーション等				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HPにて公開 http://www.459.ac.jp/public
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) <p>本校では、建学の精神及び教育目標とそれに基づく教育活動その他の学校運営の状況について、本校の教育活動と学校運営の水準の向上及び改善に資するため、自己点検・評価を実施している。学校関係者評価は、自己点検・評価の結果に基づき、実践的な職業教育に係る関係業界等のニーズを踏まえた質の高い職業教育、関係業界等との相互の課題やニーズ等の共有、実質的な連携強化、必要な人材養成、教育活動及び学校運営の改善を図ることを基本方針としている。</p> <p>学校関係者評価の実施方法は、本校学則第4条の規定に基づき、自己点検・評価結果について、年1回上半期に定期的で開催する「学校関係者評価委員会」において、外部の方々からのご意見、ご提言及び改善事項などの評価を行っている。実施体制は、本校学校関係者評価委員会規程に基づいて、業界団体、地域住民、高等学校関係者、本校卒業生、学生保護者等から委員で構成されている。その他学校長、副学校長、学校事務局長、各学科長、関係部長及び学校事務局関係者が陪席し、全校で対応している。また、学校関係者評価の結果については、本校ホームページ上で公表を行っている。</p>

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
地域住民代表	2019. 4. 1～2021. 3. 31	地域住民代表
香川県立高等学校長	2019. 4. 1～2021. 3. 31	高校関係者
香川県立高等学校長	2019. 4. 1～2021. 3. 31	高校関係者
香川県立高等学校長	2019. 4. 1～2021. 3. 31	高校関係者
保護者（柔道整復学科学生の保護者）	2019. 4. 1～2021. 3. 31	保護者代表
柔道整復学科同窓会 会長	2019. 4. 1～2021. 3. 31	卒業生代表
四国医療リハビリテーション同窓会 会長	2019. 4. 1～2021. 3. 31	卒業生代表
（公社）香川県柔道整復師会 会長	2019. 4. 1～2021. 3. 31	業界団体関係者
（一社）香川県鍼灸師会 副会長	2019. 4. 1～2021. 3. 31	業界団体関係者
（一社）香川県鍼灸マッサージ師会 副会長	2019. 4. 1～2021. 3. 31	業界団体関係者
（一社）香川県理学療法士会 理事	2019. 4. 1～2021. 3. 31	業界団体関係者
（一社）香川県作業療法士会 監事	2019. 4. 1～2021. 3. 31	業界団体関係者
（公社）香川県看護協会 常務理事	2019. 4. 1～2021. 3. 31	業界団体関係者
徳島県トレーナー協会 会長	2019. 4. 1～2021. 3. 31	業界団体関係者
学校関係者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） HPにて公開 http://www.459.ac.jp/public		
第三者による学校評価（任意記載事項）		
<ol style="list-style-type: none"> 平成 29 年に理学療法学科と作業療法学科が、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の評価を受審し、リハビリテーション教育に必要な施設基準及びカリキュラムを提供実施できる養成施設として認定を受けている。 平成 29 年に鍼灸マッサージ学科が特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構による外部評価を受審し認定を受けている。 		

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） ホームページアドレス http://www.459.ac.jp/
